

事業名 おひる「Roots」

≪拠点≫子どもとつくる 暮らし★あそび★まなびの場「Roots」(こどもNPO 大清水拠点)

対 象 6歳～15歳の子ども

事業内容

Rootsは子どもの多様な学びとその選択を大切にする地域の学校です。「知識を得る」「実体験から学ぶ」「主体的な行動につながる」活動を大切にしています。学びの本質である「楽しい」を体感し、子どもの主体性を大切に学習計画と民主的な学校運営をしています。

■学習内容

【基礎学習】「ことば・かず」を中心にした基礎学力の習得を目指します。どんぐり倶楽部の「お絵かき算数」の教材を使います。

【体験学習】ものづくりや実験など実体験を通じて学びを深めます。

【フィールドワーク】自然豊かな学び場と地域フィールドを活かし、地域のモノ・人・コトとの出会いを通して、生きた教材から学びます。

【ESD実践】自分の暮らしと社会、地域とのつながりに気づき、持続可能な社会づくりのためのソーシャルスキルの習得を目指します。

【大きなミーティング】民主的な学校運営のための話し合いをします。ひとりの「困りごと」をみんなで解決したり、必要なルールをつくったりします。

事業のポイント

- ・自分の好きなことに好きなだけ没入できる
- ・自分の自由も他人の自由も尊重される
- ・常識にとらわれずに「学び」のおもしろさを体験できる
- ・自分の生き方、他者との関わり、日常生活の中で感じ、知り、考える
- ・子どもとスタッフとで行われるミーティングに当事者として参加し、様々なテーマを語り合う(子どもとつくる学校)

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・自分の思いや気持ちを表現する力
- ・自分の考えや意思を伝える力
- ・主体的に意思決定する力
- ・主体的に行動する力
- ・ものごとの本質を見抜く力
- ・具体的な解決方法を生み出す力
- ・生活習慣を確立し、日常生活をおくる力
- ・多様な人とつながり協働する力

エピソード

「畑エピソード」

ご近所の農家のおばあさんと日常的な交流があります。散歩の途中にあいさつをする、そんな些細なきっかけから、いつしか畑を見せていただいたり、野菜をお裾分けしていただいたりしました。そんな関係性の中、野菜の育て方や、この地域の歴史・風土など、生き活きとした地域のお話を聞くことができます。永年この土地で住んでこられた方だからこそ体験されてきた歴史には、とても新鮮な知恵や造詣をうかがい知ることができます。ここでしか聞けない話から、とても豊かな学びが生まれます。

「貝塚エピソード」

文化遺産調査では、身近な地域の遠い過去を想像しながら、公園への遺跡発掘・地質分析・資料解説・年表作成などの活動を展開しました。覚えたてのギターで、歴史にまつわる歌詞の歌を練習したり、ネズミ返しという仕組みを知った翌日に、本物のネズミが出現し、あわててネズミ捕り器を工作したりしたこともありました。

ある日、すぐ近所の公園から縄文時代の鍬（やじり）が発掘されたいという情報に胸をおどらせ、散策に出かけました。区内に住む地質調査の専門家によると、残念ながら拾った破片は「チャート」という海底の微生物などが固まってできた石でしたが、近場で拾った気になる小石は「花崗岩（かこうがん）」といって、マグマ由来の石とのことでした。磨くと綺麗になるため、墓石などに使われるという話を教えてもらいました。その瞬間、子どもたちがハッと何かにひらめきました。Roots 縁側のたたき石の上に、その小石を置いてみたところ、模様がピッタリ！スタッフも気がつきませんでした。毎日みんなが当たり前靴を脱ぎ履きしていたたたき石こそ、花崗岩だったのです。

集大成の貝塚遠足では、有松を起点に鳴海経由で^{ほこのき}鉾ノ木貝塚まで、自転車で旧東海道をフィールドワークしました。石つなぎりでは生活の中に浸透する「丸石」の石垣に遭遇したり、時代による海岸線の変化を追体験したりしました。出発前に本や地図から得た知識や、人から聞いた話のイメージと、自分がそこに立ち触れ感じることを行ったり来たりしながら、歴史と遊びました。

また、子どもたちは「水」にちなんだ地名や地形が、津波被害を想定したハザードマップとも実は関係があることにも気がつきました。過去は現在に関係があるどころか、未来の生活にも確実に繋がっている。他ならない自分自身につながっているのです。

